

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	平成 28年 2月 16日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390200160-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、「ひとりの心を見つめるケア」を方針として、入居者様ひとりひとりの個性や生活を尊重する支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアにおいては、チームを組んで2人の職員で3人の利用者を担当するシステムを採用しながら、理念に掲げる「ひとりの心を見つめるケア」を実践している。利用者や担当者は信頼関係を築いており、ホールには明るい笑い声が響いている。担当者が生活の様子を毎月写真を添えて、お便りとしてそれぞれの家族に知らせており喜ばれている。訪問診療の医師や訪問看護師との連携体制を整備し、昨年8月には看取り介護を実施した。また、事業所が主催する「地域交流会」等により地域の子どもや高齢者と利用者の交流に積極的に取り組んでおり、地域の中で存在感を増している。情熱を持ってリーダーシップを発揮する管理者及び計画作成担当者を中心に利用者のために日々熱心にケアに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりの心を見つめるケア」を理念に9人の入居者様個々に合わせた対応をしている	利用者一人ひとりに寄り添ってその人の心を見つめるケアを理念としており、利用者との距離を近くしつつ、客観的な判断も出来るよう、職員2~3人で一人の利用者を担当する方法を採り入れ、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会等のグループコミュニケーションから、地域の花壇の花植え、清祥作業等の参加まで多種に行っている。	町内会に加入して地域との関係を深めながら、清掃活動などにも参加している。敬老会や餅つき大会等主催行事を地域交流の場として活用し、地域の子どもたちや老人クラブ等の皆さんとも積極的な交流を重ねている。	現在の事業所行事に加え、2階のフロアを活用して、地域の人が集まる交流方法を工夫してみるのも一考かと考える。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会等のイベント 時には保育所の園児数名来所され入居者様と交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者ご家族様に参加して頂いている。遠方の方も来て頂いている。地域の方もほぼ毎回参加し意見も頂いている。	町内と仮設の自治会や、老人クラブ等地域住民がメンバーで、運営に理解と協力をいただいている。認知症に関して地域貢献も視野に入れながら老人クラブ等を通じて地域内の高齢者世帯との交流を進めたいとしている。	会議のマンネリ化も感じられてきていることから、外部講師を招いての研修や様々な立場の委員を加えるなど、工夫を重ねながら、マンネリ化の防止・解消を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂き事業所へのアドバイス頂いている。	推進会議で、情報の交換を行ない、普段には、ファックスやメールで、やり取りをしている。とりわけ、「重度化した場合(看取り)における指針」の作成に際して、市職員の来訪が多くあり、緊密な連携が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は施設ではないが、言葉による拘束の取り組みを皆で考えることができた。	外部・内部伝達研修を通して、身体拘束に関する情報を共有・実践している。今後は、「スピーチロック委員会(仮称)」を中心として、普段、気がつきにくい・見逃しやすい言葉による拘束(制止や抑制)について、取り組むこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在までは虐待は確認されていないささいな事でも職員等話し合い各自意識を持って対応している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外堅守うい行う事におり各職員が認知症 んび対する擁護する方法、理解を行っている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前する前に何度か面談や相談をし本人 に関わる方にできるだけ安心感を持ってもら えるよう努力している			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	入居者様には困ったことや話したいことがあ るときにはいつでも話しを聴いて上げられる ようにし安心感を持ってもらっている。	利用者は日頃の会話の中で要望など聞いて いる。担当者からは、毎月家族へ、写真と近 況報告を添えた便りと広報を送り、電話連絡 などをしながら、家族が訪問しやすく、話しや すい雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は、細かく聞き取る 様にしており、常に代表者は話しやすいよう 心がけている。	ミーティング(運営者含む)だけではなく、申し 送り時など、普段から、要望や意見等が多く 出されている。職員からは看取りに対する不 安や体制強化の要望が出され、宿直の配置 に繋がった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人事考査は、代表者のみならず、日頃の職 員とのコミュニケーションからも職場の様子 を把握するよう努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	代表者は常にスーパーバイザーとしての姿 勢を心がけてOJTを行って、内外研修にも 取り組み職員が自己研鑑の意識を持つよう 指導している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	地域グループホーム合同運動会への参加 等、情報交換・交流をするよう心がけてい る。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、環境に慣れて安心できるまで各職員が関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には耳を傾け、職員の課題とし、お互いが納得できるまで話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは入居者様の身体状況等を把握し、それに伴ったプランを立てて実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎回食事準備時は、材料の皮むきや盛り付け 配膳等を一緒に行っている。後片付け後はホーム内の掃除や居室の床を紙モップで拭きして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらっしゃったときには、ホームでの様子を報告したり、必要なものなどを用意してもらっている。面会等で入居者様も安心し、喜んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の写真をお部屋に飾ったり、戴いた物も入居者様の見やすい所に置くようにしている。	地域交流会等で、近隣の仮設住宅に住む知人と旧交を温め、来訪の友人と一緒に記念写真を撮っている。また懐かしい場所に同行したり、家族の協力にて、自宅周辺のドライブや墓参り、パーマ屋などにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が独りにならないよう配慮し、職員が話しかけ話題を提供している。又、入居者様同士トラブルの予兆が見えた際には、お互いの話を聞いて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を介して、社会やご家族との交流を図り、相談があったときには快く対応するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の言葉の意味を考え、行動の意味を多方面に考慮するように心がけている。	担当者は「聴き上手」を心がけ、よく話を聞き、本人の思いや希望を掴むよう努めている。担当者が親しく接することで本人の言動から思いを理解出来る度合いが増えており、担当制の効果と自己評価している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様個々の特徴に合わせ、一人ひとりにあったケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活リズム・習慣を把握し、ニーズに対応できるよう予見を行うように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画と共に日々変化する入居者様の状態を全員が把握できるよう日誌やコミュニケーションにより対応している。	利用開始時は計画作成担当者がアセスメントを行い計画を作成し、その後は担当者による毎月のモニタリングと、3か月毎に全職員による担当者会議で評価を行っている。見直しが必要な場合は本人、家族の同意を得て計画変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者による日々の記録のほか、日誌による微細な情報の記録・伝達に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者様の習慣・体調等9名それぞれに合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を確保しながら社用車を使用することで、近隣の商店への買い物、通院等に汎用的に動くことができる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に2回訪問看護がら書誌一度見てもらい通院が必要なおときにはその都度家族と連絡を取り対応してもらっている。その時は受診結果を報告もお願いしている。職員が付き添いの場合の結果を家族に報告している。	利用前からのかかりつけ医となっており、職員の同行が多くなってきている。受診時は、バイタルや生活状況の記録を持参し、適切な受診ができるよう医師と連携している。本年度から週1回の訪問診療も開始となった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師はおらず訪問の看護師が週2回来所入居者様のケアをしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院になった場合にはご家族、医師を交え話し合い退院後も安心して過ごせるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況が悪化した場合、かかりつけ医と連携し、ご家族と話し合った上で、ご本人とご家族の要望に答えられるよう努力している。必要な場合は訪問往診に着替えられる事もある。	看取り指針を作成しており、医師、看護師との連携体制も整っている。昨年8月、1人の看取りを行ない、職員の看取りケアに対する不安の解消につながっている。夜間帯にも職員2人(宿直配置)の体制ができ、関係機関への速やかな連絡が可能になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアルを作成し、職員が対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を行い、緊急時に対応できるよう努力している。 近隣住民の支援もお願いし、体制作りに努めている。	春秋に定期的避難訓練を実施しており、特に夜間を想定した訓練や車椅子利用者の避難方法を工夫している。昨年は布団に包まり窓から避難する訓練も行った。2名の職員に宿直が加わり、夜間の体制が強化された。	避難訓練を兼ねて、避難場所(公民館)までの散歩を、時々行なうのも一考かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で、言葉遣いに注意し合いながら、適切な言葉を選ぶよう心がけている。	声かけは「さんづけ」を基本としながら、利用者の話し方(方言・ゆったり等)にあわせて会話をしている。「スイーツデー」「調理デー」(3ヶ月2回)を設定して、利用者が暮らしの中で何らかの役割を持てるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に耳を傾け、職員と共に考え、自分のしたいことを表現してもらえるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合わせ、ご本人ができるところまで見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で準備できる入居者様はその日の朝選んでいただくがご自身でできない場合いくつか出しご本人に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回入居様で行う調理デーとおやつ作りをもうけ材料の買物まで一緒に行っている。	利用者のリクエストを受け、週2回食材の買い出しに行き、嗜好や食べやすさを工夫した食事にしている。準備から味噌汁作りなどの調理、後片付けまで、全員ができることに参加し、職員と一緒に楽しむ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様が自由にお茶が飲めるようにポットに麦茶を用意し 他にもスポーツドリンク等も置いている。食事は毎日摂取量を記録している。規取不足等時ご本人が食べられそうな代食を準備しておき、保食として使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしている。1人で充分にできないときは、職員が仕上げみがきを行っている。週に1回は口腔チェックを行い、みがき残しや歯ぐきの状態を観察している。義歯洗浄も行い衛生に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに時間を見て声掛けにてトイレ誘導を行い清潔を保っている。	おむつ使用の利用者はなく、声がけをして、全員がトイレで用を足している。排泄記録を共有しながら、一層の自立が見られており、現状維持に止まらず、さらなる改善を目標に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おかゆ、プルーン、ホットミルク等を活用し、便秘の予防に取り組み、かかりつけの医師に相談する当、多方面での支援を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り希望に沿ったタイミングで、入浴剤を使用したり、音楽をかけて、BGMが流れる空間での入浴も行っている。	週2・3回を目安に、午前中の中の入浴をしているが、利用者の希望に合わせて対応している。一番風呂の希望や職員と会話しながら入浴する人もおり、入浴剤や菖蒲湯などを取り入れて、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にベッドを設置し、好きな時間に休んで頂いている。ご自身愛用の布団にて安心してもらえるよう配慮している。定期的にリネン交換を行い清潔に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容を確認している(ファイル) 特に新しい薬が処方された時など		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自宅に居たときの様に皆主婦でしたので主に台所仕事を中心にお手伝いをして頂いている。なじみの商店、美容室へ行けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月各担当者が日程を決め利用者話し合いながら希望にそって外出できている。又は急な買物のとき声掛けにて利用者とお掛けしている。	普段は、事業所周辺の散歩をしており、利用者の希望によって桜の花見や紅葉狩り等、四季にあわせてドライブに出かけている。次第に遠出は難しくなっているが、家族等の協力を得て、通院帰りの外食や買い物・食事・墓参り等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から、お小遣いをお預かりし、それぞれ買いたい物、欲しい物を職員、会社金庫で管理のもと、一緒に買物へ言ったり、お小遣いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様へ届いたお手紙や品物は入居者様ご自身に手渡ししている。品物を確認しお礼のお手紙を書いたり、お電話でお礼を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子対応のトイレ2ヶ所設置している。 浴室には機械浴もあり寝たままでも入浴できる。	大黒柱を中心にした木造建物であり、木の温もり、日差しの暖かさが重なって、明るい居住空間となっている。壁には、ドライブ等の写真が飾られ目を楽しませてくれる。堀炬燵のある小上がりの和室では、利用者が横になったり、趣味の編み物や針子を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では座りなれた椅子に座って頂いている。畳のある小上がりスペースでは趣味活動や洗濯物を畳んで貰ってご自身の物を畳んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや印刷した写真、尾のみの時計の形やレイアウトを聞き、一緒に装飾したりしている。また、職員から見ると正直衣類が散乱している様に見えるが、ご本人の手が届く場所におきたいという意思を尊重している。	大きな持込み物はなく、時計やカレンダー、家族写真、着替え等を夫々持ち込んでいる。ベッドと収納タンスは備え付けであり、壁に押し花や塗り絵などを飾り、自分の部屋として居心地よく清潔感のある居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様ご自身が出来ることは見守りをし、介助の必要な場合は、ご本人に合ったケアを提供できるよう心がけている。		